

弥生人の「顔」発見！

～ 水内坐一元神社遺跡出土の人面付土器について ～

令和 7 年 10 月 8 日現在
長野市観光文化部文化財課
長野市埋蔵文化財センター

市施行事業：柳原雨水調整池整備事業に伴い実施されている小島・柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡の発掘調査で、弥生時代中期末（約 2000 年前）の人面付土器が見つかった。概要は以下のとおり。

1 出土遺跡

小島・柳原遺跡群

（こじま・やなぎはらいせきぐん）

水内坐一元神社遺跡

（みのちましますいちげんじんじゃいせき）

2 遺跡の概要

水内坐一元神社遺跡は、長野盆地の北東部、千曲川の左岸自然堤防上に立地する。これまで 5 次にもわたり調査が行われ、弥生時代中期から古墳時代中期にいたる集落や墓域が明らかになった。特に、3 次調査で確認された弥生時代後期の環濠から出土した槍形木製品や木製盾は、武器を使った儀礼の存在を想定させる資料として注目されている。



今回出土した人面付土器（長野市：水内坐一元神社遺跡）

3 調査の概要

令和 7 年 5 月 7 日（水）から開始した今年度の調査で、これまでに弥生時代中期後半の竪穴建物跡 19 棟・礫床木棺墓 1 基・自然流路、弥生時代後期～終末期の周溝墓 6 基、土器棺墓 4 基、中世の溝跡などが確認されている。人面付土器は、弥生時代中期末の竪穴建物跡（C 区 SB14）の覆土中から 8 月 27 日（水）に出土した。

4 人面付土器の概要

壺の口縁部へやや上向きの「顔」がつくり出される。頭部全体を表現しているとみられるが、左側頭部から後頭部、頭頂部を欠いている。大きさは、幅 11.7cm、高さ 11.5cm、奥行 7.9cm を測る。

顔のパーツは、目・口が削り抜き、鼻・眉・耳が粘土貼付けで表される。鼻は、鼻翼や鼻孔のない平板な作りであるが、鼻筋がとおった鷲鼻で鼻根が額まで伸び、実際よりも隆起が誇張されている。口は、外側から空けた孔を内側から粘土でふさぎ、その上から小孔を 3 つ空けている。類例を参考にすれば、歯を表現したものと推測される。

人体以外の表現としては、右側面の大きなひれ状突起、額からひれ状突起にかけての頭飾り状の突起列がある。このほか、ひれ状突起と首に文様が施される。

5 歴史的評価

人面付土器は、縄文時代の土偶に起源をもつ弥生時代の祭祀の道具で、様々なタイプがあり、東日本を主としておよそ 100 点以上が出土している。そのうち長野県内の出土例は多い方で、長野市内でも若穂・榎田遺跡、松代・松原遺跡等に出土例があるが、それらの多くが小片であり、本資料のように顔つきがわかるものは珍しい。

類似した資料は、佐久市・西一本柳遺跡、群馬・高崎競馬場遺跡で出土している。全体的には異なる部分も多いが、誇張された鼻、歯が表現された口、ひれ状突起と耳の表現、頭飾り状の突起列、文様などに共通した要素を指摘することができる。

本資料がつくられた弥生時代中期後半の長野県北中部と群馬県は、「栗林式土器」「竜見町式土器」というよく似た土器を用いる間柄であった。祭祀についても、長野県北部に波及した銅鐸・銅戈や絵画土器を用いた西日本的な農耕祭祀の余波が佐久地域を経て群馬県まで達したことが知られている。水内坐一元神社遺跡から佐久・群馬と相似た人面付土器が出土したことは、この種の人面付土器の系譜や役割、地域間交流のあり方を考える上で重要な意義をもつといえる。

6 専門家のコメント

(1) 明治大学名誉教授 石川日出志 先生のコメント

本例は、弥生時代後半期の千曲川流域と群馬県域に類例が見つかった、人の顔面・頭部を表現した土器である。これまで小破片が多いために特徴がよくつかめなかったが、本例によってそれが明確になる。善光寺平の弥生文化の歴史の中でも、在来の伝統を継承しながらも西日本に由来する諸文化を盛んに採り入れた段階にあたり、本例もまたそのことを証明する資料である。

(2) 東京大学名誉教授 設楽博己 先生のコメント

人面付き土器は、伝統系要素（縄文晩期終末～弥生前期以来の東日本土着要素）と新出系要素（弥生前期以来の西日本あるいは大陸に起源がある要素）に分けてみることができ、本例は新出系の要素が多いが、伝統系要素も含まれているのが面白い。

◆ 構成要素の比較（番号は設楽博己・石川岳彦 2017『弥生時代人物造形品の研究』の個体番号）

- ・眉（ないし目）と鼻が十字になる：伝統系（類例＝305・荒海貝塚の黥面土偶）
- ・横に開いた後頭部のヒレ状隆起：伝統系
（類例＝214・294・318 等多数 黥面土偶や土偶形容器の装飾 女性の髪形か？）
- ・頭部の装飾：新出系（類例＝高崎競馬場・391・392）
- ・くりぬかれた目：新出系（人物埴輪の目に通じることを山内清男が指摘）
（類例＝399・400・402・422・391～393 など、西日本起源で弥生中期後葉に東日本に）
- ・高い鼻：新出系（類例＝404・405）
- ・線刻のない顔面：新出系
（類例＝394～396・390～393 など、西日本起源で弥生中期後葉に東日本に）
- ・歯の表現：新出系（類例＝高崎競馬場・高崎市山名原口2 遺跡の人物埴輪）

7 市民への公開予定

- (1) 日 時 令和7年11月3日（月・祝）午前10時～（詳細後日発表）
- (2) 場 所 発掘調査現地説明会会場にて（長野市柳原総合市民センター駐車場）
- (3) その他 今年度末に開催予定の発掘調査速報展にて、改めて公開（詳細後日発表）